

植村信保が 分析する 生保の破綻要因

日時： 2008年 7月 25日(金) 午後 2時半 ~ 5時

場所： 情報オアシス神田(南スペース)

千代田区鍛冶町 1-4-3 竹内ビル2F

電話：03-3253-2911

<会費>

5,000円(税込)

<受付>

14:00から

<セミナー>

14:30~17:00 (途中 10分休憩)

<http://www.acalax.jp/hp/seminar/kaijou-minami.pdf>

セミナー終了後懇親会(会費別途2,000円)を用意しています。

- ◆ 1997年4月から2001年3月までのわずか4年間に中堅生保7社の経営が相次いで破綻し、保険契約者が多大な不利益を被るという事態が発生しました。ところが、政府や国会が個々の破綻事例を調査・分析し、その教訓を生かそうという取り組みは、残念ながらほとんど行われてきませんでした。
- ◆ そこで私は、日本で初めて破綻生保の関係者(当時の経営者、企画・数理・財務部門等のスタッフ)への大規模なインタビューを行い、経営に関する証言を集めることで、破綻した中堅生保の内部で何が起こっていたのかを明らかにしようとしてきました。
- ◆ 個別事例を詳細に検証した結果、生保破綻は構造的な問題ではなく、ビジネスモデルや経営者、経営組織といった、その会社固有の内的要因が重要な意味を持っていたことが浮き彫りになりました。(講師より)

1. 本研究の目的、対象、手法など
2. 外的要因と経営破綻
3. 個別破綻事例の検証
4. 破綻しなかった中堅生保/海外事例
5. 破綻から何を学んだのか
6. 質疑応答

【講師】植村 信保 さん 略歴

格付投資情報センター(R&I) 格付本部チーフアナリスト
博士(学術、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科)

- ・ 神奈川県生まれ。安田火災海上保険(現・損害保険ジャパン)を経て、1997年に日本公社債研究所(現・格付投資情報センター)入社。格付けアナリストとして生損保の経営分析を担当。
- ・ 外部有識者として金融庁の各種委員会メンバー(ソルベンシーマージン比率、第三分野の責任準備金など)に参加。
- ・ 主な著書は「生保の未来」(日本経済新聞社、1999年)「生保のビジネスモデルが変わる」(東洋経済新報社、2003年)など。東洋経済「生保・損保特集号」ほか、経済誌への寄稿多数。「平成生保破綻の真実(仮)」を日本経済新聞出版社から2008年9月刊行予定。

★ インターネットでの参加申込は http://www.acalax.jp/hp/formmail_seminar/contact.html からできます。

★ 当社のホームページ <http://www.acalax.jp> を参考にご覧下さい。

★ ご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せください。アカラックス(株) 担当：下川晴子 Tel: 03-5209-1251

第2回 セミナー参加申込書 (Fax用)

Fax 番号 03-5209-1259

| | | | |
|---------|--|--------|-----|
| 会社名 | | | |
| 住所 | | | |
| 電話番号 | | Fax 番号 | |
| 参加者 | (役職) | (役職) | |
| | (氏名) | (氏名) | |
| ご参加の方は | <input type="checkbox"/> FP <input type="checkbox"/> 生損保代理店 <input type="checkbox"/> 保険会社勤務 <input type="checkbox"/> 報道関係() | | |
| | <input type="checkbox"/> その他 () | | |
| 今回のご参加は | <input type="checkbox"/> 初めて <input type="checkbox"/> ()回目 | ご紹介は | 様から |